2025 年 6 月 10 日

学校法人三幸学園
神戸元町こども専門学校
校長　門脇　千里　殿

学校関係者評価委員会
委員長　堤　隆太

学校関係者評価委員会実施報告

2024 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1　学校関係者評価委員
①　野村　恵子　（社会福祉法人樫の木会　幼保連携型認定こども園かしの木こども園）
②　伊丹　良一　（社会福祉法人子どもの家庭福祉会　幼保連携型認定こども園　海岸通りあすのこども園）
③　堤　隆太　（飛鳥未来きぼう高等学校　教頭）
④　大橋　悠一　（第 6 期卒業生）
⑤　中山　美沙樹（第 7 期卒業生）

2　学校関係者評価委員会の開催状況
2025 年 6 月 10 日（会場　神戸元町こども専門学校　504 教室）

3　学校関係者委員会報告
以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2024 年度　学校法人　三幸学園　神戸元町こども専門学校
自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者 ： 副校長 佐々木 領矢
学校関係者評価報告責任者 ： 学校関係者評価委員会委員長：堤　隆太
学校関係者評価委員：伊丹　良一
学校関係者評価委員：野村　　恵子
学校関係者評価委員：大橋　悠一
学校関係者評価委員：中山　美沙樹

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、保育分野の学校として「こどもを育み、人・社会を活性化することで日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、保育分野として「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

教務スローガン：凡事徹底

教務_退学率目標：7%未満、結果：13.5%

広報_募集目標：130 名、結果：74 名

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

学校としての教育目標や学科ごとの目指す人材育成像の設定はできているが、具体的な評価と体現に繋げられていない。

② 今後の改善方策

定期的な評価実施と評価から抽出される課題を計画的に取り組み、目指す人材育成像に一層近づけられる教育を行っていく。

③ 特記事項

なし

④　学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

①　課題

業務の効率化を図ってはいるがより効果的な情報システム化が必要である。

②　今後の改善方策

ICT 授業ツールの導入、実習手帳簿のデジタル化を検討し、授業準備や授業実施における効率化も図る。

③　特記事項

特になし

④　学校関係者評価委員会コメント

伊丹委員　週案、月案、年間カリキュラムをパソコン上で作成し保存をしている。監査時もデータ上の確認でOK と明石市より許可が下りている。実習簿のデジタル化については、各養成校の規定に従って実施している。現状は、紙面での実習簿の利用率が高い。紙面の方が実習生の頑張りが伝わるように感じるが、作業の効率化や保育業界の負担軽減を考えると、ICT化は必要である。

野村委員　・週案や個人記録、登園記録や園だよりは「コドモン」アプリを使用している。紙面で管理しているものもあるが、今後見直しを行ってデジタル化を進めていく予定。現在来ている実習生は、iPad を持参して記録も iPad 上で行っているが、添削の度に都度印刷が必要になるため、デバイスの中で添削ができるようなアプリが出るとより良いと感じている。

・毎日の連絡ノート(特に乳児)は、紙媒体で続けていきたいと職員からの希望が強い。

・「コドモン」のアプリに関しては、個人の携帯で使用ができるため、WordやExcelでなくとも利用することができている

中山委員　現在勤めている園は、ICT化はまだ進んでおらず、すべて紙面で運用をしている。Excel や Word は、学生のうちにもう少し学んでおけると良いかと感じている。

大橋委員　手書きの良さがあるのはもちろんだが、ICT化によって見やすさ、効率の良さが格段に良いことにとても利点を感じている。在学中パソコンの授業はもっと取り入れても良いと思う。2 年次以降パソコンの授業がないため、基礎を何度も繰り返し取り組むことが望ましい。

堤委員　　ギガスクール構想の施策により、授業を含めICT化をしている。テスト以外紙印刷していない。フリック入力はできるがタイピングができない、スマホ上では自分の気持ちを表せるが、WordやExcelでは書きなれない、といった生徒が多いのが現状。本日の話を踏まえ、Office の基本的な授業がないと社会に出て困ると感じたため、もっとパソコンの授業は増やしても良いのではないか。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

①　課題

業界との連携は引き続き強化していく必要がある。

指導力育成など資質向上のための研修は実施できているが、関連分野の先進的な知識・技術を修得するための研修は十分ではない。

②　今後の改善方策

実習や行事だけではなく授業においても関連分野の業界と連携できるよう計画を進める。

関連分野の先進的な知識・技術を修得するための研修の計画を進める。

③　特記事項

なし

④　学校関係者評価委員会コメント

大橋委員　研修は幅広いものを積極的に取り入れている。基本的には、該当の研修に興味を持っている職員が参加できるようになっている。自分で見つけた研修にも参加させてもらうこともできる。

中山委員　兵庫県主催やSI研修等、園から指定のある研修にのみ参加をしている。基本的には、園の保育を優先している。また、研修を受けた後、園内で内容を共有する機会がある。

野村委員　研修は、市や県、財団、保育コンサルタント主催の研修等多く取り入れている。人材育成に関する研修も実施している。

伊丹委員　法人全体で 400 名程職員がおり、その時々の子どもたちの様子を踏まえ、法人全体で考えるべき課題提示をして、みんなで考える研修を実施している。勤務歴や職務別の研修も実施している。処遇改善につながるキャリアアップ研修が、唯一保育時間内に参加する研修となっている。

堤委員　高校では中途入社の職員が多く前職が異なる方が多いため、学園主催の研修以外でも高校分野のみで行う階層別研修も実施している。各教科ライン、業務ラインでの研修も実施している。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	2
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

①　課題

退学率の低減を図る必要がある。

卒業生の状況を把握しきれていない。

②　今後の改善方策

複数担任制の促進と効果的運用を行うとともに、スクールカウンセラーを効果的に活用していく。

卒業生とのネットワークの構築のために、卒業生が就職してお世話になっている園・施設への訪問を積極的に行っていく。

③　特記事項

なし

④　学校関係者評価委員会コメント

中山委員　　実習巡回の際に、お世話になった先生に会えたときは緊張もあるが嬉しい気持ちになった。

大橋委員　お世話になった先生に近況報告ができる機会は嬉しく、一安心する機会となった。

伊丹委員　現状、養成校の教員が卒業生訪問のために訪問することはないが、実習巡回の際に顔を合わせることができる機会は職員にとってもよい機会である。

野村委員　職員を連れて母校へ訪問する機会を設けている。

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路･就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	4
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校･高等専修学校等との連携によるキャリア教育･職業教育の取組が行われているか	4

①　課題

クラス担任制で担任が主に生徒状況の把握を行っているが、生徒の多様化に対応し切れていないケースが多くなり、適切な相談対応が十分ではない。

卒業生への支援体制は一部構築しているが、十分に活用できていない。

②　今後の改善方策

スクールカウンセラーの運用体制見直し(機会の拡張)と、連携の強化を図る。

卒業生支援体制の活性化を図る。

③　特記事項

なし

④　学校関係者評価委員会コメント

特になし

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設･設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災･安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

避難訓練の未実施

② 今後の改善方策

避難訓練の実施を含めた防災･防犯の常時対策の仕組みづくりを構築していく

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

大橋委員　月に 1 度必ず園全体で避難訓練を行っている。隣が海という環境もあり、津波を想定して、1 年を通して約 1km 程度の避難ができるよう、散歩のコース等を工夫している。

中山委員　火事を想定し、煙の中での歩き方の訓練を実施した。

伊丹委員　事前に避難場所を決めていたとしても、同じところに近隣住民全員が集まると避難しきれない恐れもあるため、近隣の幼稚園、小学校と連携して避難訓練を実施してみることを提案している。

野村委員　不審者、津波、地震を想定した避難訓練を月に 1 度実施している。非常食の試食や保護者も交えた訓練を行っている。

堤委員　高校は年に 1 回、始業式等で避難経路の確認等を行っている。外国人や観光客が無断でトイレ使用をする機会が多く、防犯のため、挨拶や教室内での対応についても周知をしている。通信制高校は防災備品の保管義務がないため、保管等も考えていきたい。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

継続的、安定的な入学者の確保。

入学前後のギャップの解消。

② 今後の改善方策

教育活動と連動した広報活動を行うことで、学校のブランド力を強化していく。

高等学校の職業教育と連携した広報活動を行っていく。

③　特記事項

兵庫県専修学校各種学校連合会に加盟し、同会で定められた生徒募集ルールに則り取り組んでいる。

④　学校関係者評価委員会コメント

大橋委員　パンフレットと実際の学校生活には在学時にはギャップを感じていた。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算･収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

①　課題

【中長期計画】

なし

【予算･収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

②　今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)であり、ホームページ上に公開している。今後は当該計画の達成状況等についても公開予定である。

【財務情報の公開】

なし

③　特記事項

第3期中期計画については、東京未来大学及び小田原短期大学の中計改定に加え、東京みらい中学校及び支援学校仙台みらい高等学園の内容を追加し、第3期中期経営計画(第2版)として改定する予定である。

④学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

①　課題

個人情報の保護に努めてはいるが徹底という意味では十分ではない。

②　今後の改善方策

個人情報に対するパスワードの設定や郵送物への記録などを強化していく。

③　特記事項

なし

④　学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

①　課題

地域貢献活動ができていない。

外部と関わるボランティアの機会を十分に提供できていない。

②　今後の改善方策

地域支援・産学連携の活動を、現場実習・卒業生が就業先としてお世話になっている園・施設と共に計画・実施していく。

ボランティア情報を集める仕組みを構築する。

③　特記事項

なし

④　学校関係者評価委員会コメント

伊丹委員　就職フェアで着席した方にはボランティアの案内をお渡ししている。今年度 5 名ボランティア参加実績があり、今後就職につなげていきたい。保育の楽しさを感じてもらうことを目的に受け入れをしている。

野村委員　行事前になると関わりがおろそかになってしまうため、行事前を避け普段の関わりをしてもらえる日程をボランティア推奨日としている。行事参加希望の場合は、行事日での受け入れも行っている。

大橋委員　在学中はチャレンジ実習をきっかけに、毎週土曜や長期休暇中に自宅近くのこども園でボランティアに参加していた。

中山委員　どんな園が自分に合っているのかを確認するため、保育補助業務ができる園や私立、公立それぞれの園のボランティアに参加していた。ボランティアや実習を通して、自分に合った園を見つけることができ、就職につながった。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

保育現場や卒業生からの意見を踏まえるとICT化を進めていく必要性を改めて実感したため、教員へのレクチャーや学生への積極利用を促進していきたい。また、卒業生支援においては実習時の訪問だけでなく園、卒業生、養成校それぞれにとって良い機会になるような時期や内容を考え、積極的に取り入れていく。

避難訓練の話題においては各園で取り組んでいる様々な事例やアイディアを伺うことができた。保育現場における訓練に関しても広い視野を持った保育者を育成できるように学生へ伝達、指導を行っていきたい。

出生数、18 歳人口が年々減少していく中で、保育施設同様に本学も学生や地域から選ばれる学校づくりをしていくための取り組みを推進していきたい。

以上